

生活支援体制整備事業実務担当者研修会兼情報交換会（H29.11.14） 意見交換結果

※「自治体名」は、当日に記載いただいた意見交換用紙からわかるもののみ記載

質問 1	サロン，集いの場，通いの場，生活支援などの活動団体の情報をどのように集めているか。集めるにあたり，工夫していることはあるか。
自治体名	内 容
	<p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町会活動への参加 ・ キーマン探しの実施 ・ (サロン，集いの場，通いの場，生活支援などの) 利用者に情報を聞く。 →地域資源のマップ化につなげたい。 <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (意識的に) 集めなくとも，小さな町だと情報は集まる。 ・ 自前で情報収集，発信を行う。 ・ 各団体等が作成している取組状況の一覧をもらっている。 ・ 高齢化した団体をひとまとめにしたい。
江差町	<p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーター3名を配置（1層1名・2層2名） ・ 年齢を問わず，全世帯を個別にまわっている。 ・ アポなしで訪問し，ニーズを把握（ツールもあるが，利用者によって変える） →家族構成や趣味などを聞く。（地域のサークル等の情報が聞けることもある）
函館市	<p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町会役員等へのニーズ調査により，大まかなニーズを把握することができた。 圏域ごとで異なるニーズがある。 ・ 包括では，総合相談や見守りネットワークから情報を把握している。

質問2	地域住民の支え合いの意識を強くするため、工夫していることはあるか。
自治体名	内 容
	<p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議（地域課題）の開催 ・情報の開示（自治体の現状や将来のことについて知ってもらう） <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりカフェで自分達が出来ることを考えてもらう。 ・少しずつ支え合いの重要性を伝える。 ・「ボランティアをやりたいか、やるとすれば有償か無償か」に関するアンケートを実施し、意識を知る。 60代以上は無償でやりたい、50代は有償（お小遣い程度）でならやりたい、40代以下はわからないとの回答が多かった。 ・ボランティア養成講座でボランティアの必要性等を訴え、意識を強めてもらう。 ・支え合いに関する研修での、まちづくりカフェの見学や、多世代を巻き込んだ取組み ・支え合いに関するフォーラムの開催や、ボランティア研修等での周知 ・高齢化した多数の団体が、（活動の停止等により）要支援・要介護状態にならないよう、庁内職員へ研修を行いたい。
北斗市	<p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座で支え合いについて話すようにしているほか、他都市の取組みも紹介する。 ・地盤意識が強く、他の住民に対して排他的なところもある。
函館市	<p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康サロンの立ち上げにより、人と人がつながる機会になる。 ・自主サークルの立ち上げ（場をつくり、和をつくる） ・包括が適度に関わり、活動のバックアップをしている。 ・「良かった」と実感できることがあると、活動が続く。 活動の継続が難しい場合もあるが、地道に続けていくことが大切である。

質問3	協議体は1年目どのような内容を話し合っていたのか。 また、1年目のコーディネーターの役割や活動の実例が知りたい。
自治体名	内 容
	<p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・75歳以上の高齢者宅を訪問し、チェックリスト・情報提供・ニーズ調査を実施 <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せたな町を視察 ・基本チェックリストを改変したもので高齢者のニーズ把握を実施 ・町内会・便利屋・NPO・社協等が参加しての協議体を開催， 介護事業所は頼り切らないように，メンバーから除いた。 ・まちの中心でのサロンの立ち上げの検討 ・ニーズ調査の進め方の検討 ・ニーズ調査の実施と，2層や総合事業をどう進めていくかの検討 ・協議体のメンバーが持つ地域資源情報の共有 ・ボランティアの養成講座を，どのような内容にするか。
七飯町	<p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民に対する生活支援体制整備事業の概要説明 ・サロン等を広めるにあたっての意見聴取 ・協議体メンバーは町内会代表や老人クラブ等で，介護事業所は入れず， 住民主体の7人で構成し，3か月に1回のペースで開催 ・上記のほか，町内会に投げかけ，自主的に参加したい人も入って協議

質問 4	B型サービスについて、担い手の発掘をどのように行っているのか。 B型サービスを未実施である場合、B型サービスの創設の仕方について現時点でどのように考えているか。(B型の構想としてあるもの、何をもってB型と位置付けるか等)
自治体名	内 容
	<p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶飲み関係からB型へ発展できないか。 ・ニーズ調査結果からB型を検討したい。
北斗市	<p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既に住民主体のB型サービスが2か所ある。
木古内町	<p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア等の担い手の発掘からB型へつなげる。
江差町	<p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりカフェのプロジェクトチームが、B型サービスの創設にも携わることを想定している。
七飯町	<p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティアで、平成30年度からB型（訪問）を実施予定 ※講師の服部氏の資料中の香川県高松市と似たような形